



今年度最後の学校運営協議会の開催

2月22日(木)に第3回学校運営協議会を本校図書室にて実施しました。初めに、後期学校評価の結果から、今年度の川上小・中学校の教育活動それぞれの成果と課題について報告しました。各委員さんからは、「新型コロナが5類に移行して、学校行事等に保護者や地域の方々の参加制限が無くなり、連携や交流の広がりにより風通しが良くなった。地域行事等で地域の手が不足している場合、中学生の参加やボランティアをお願いしたい。スマホやゲーム機器の使用時間や使用方法については、子どもたちの教育も大切だが、その使用を認め与えている保護者への研修等が必要であるように感じる。」などの、お気づきや助言をいただきました。その後、今年度作成した「地域連携カリキュラム2」や来年度の学年末休業日の変更、小学校の通知票の変更について報告し、最後に令和6年度の学校経営ビジョン(案)の承認をいただきました。

川上小・中学校は、来年度以降も「地域とともにある学校」と「学校を核とした地域作り」を推進してまいります。皆様のご支援とご理解をよろしくお願いいたします。



令和5年度 宇部市立川上中学校、学校・地域連携カリキュラム 2

川上小・中学校の教育活動と地域連携の推進

学校運営協議会 協議内容と川上小・中学校の教育活動と地域連携の推進

項目	川上小・中学校の教育活動	地域連携カリキュラム 2	地域連携の推進
1. 地域連携の推進	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会
2. 地域連携の推進	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会
3. 地域連携の推進	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会
4. 地域連携の推進	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会
5. 地域連携の推進	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会
6. 地域連携の推進	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会
7. 地域連携の推進	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会
8. 地域連携の推進	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会
9. 地域連携の推進	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会
10. 地域連携の推進	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会	地域連携推進委員会

学校評価アンケート結果(後期)

【地域連携カリキュラム 2】

後期学校評価の集計が終わりましたので、ご報告します。本年度を振り返り、来年度の教育活動が一層充実し、生徒たちの成長に結びつくよう努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。大変お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

【肯定率：A評価(そう思う)とB評価(だいたいそう思う)の合計の割合[本校の目標 85%以上]】

【総括】

○前期の評価と比べて、肯定率が高くなった項目が、生徒3項目、保護者10項目となっています。2学期には、運動会や文化祭といった大きな学校行事があったにもかかわらず、生徒の肯定率が期待したほど伸びていないことは、真摯に受け止めなければならないと思っています。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、ほぼ全ての行事がコロナ禍以前の状況に戻った中、それぞれの教育活動に対する我々教職員の準備等が不十分となった可能性が考えられます。コロナ禍以前の教育活動を単に継承するのではなく、学校教育目標に照らし合わせ、確固たる多目的・目標や信念をもち、教育活動の精査と内容の充実を推進したいと考えます。肯定率を上げることができなかった項目や、肯定率80%を上回らなかった項目については、継続した課題として受け止め、来年度の取組に生かしていきたいと思っています。

【学習面】

○『①授業での学び合い学習』では、非常に高い評価が見られる。ペアやグループ活動がどの授業においても行われていることがわかる。一方で、グループ活動に消極的な生徒もいるため、「話しやすい課題を工夫する」、「話しやすい雰囲気作りをする」、「自信がもてるような声かけをする」などをし、さらに学び合い学習の質を高めたい。

○『③ICT の活用』については、昨年度に比べて活用率が上がっており、生徒もタブレット端末の操作になれている。一方で、活用方法がマンネリ化したり、使用する教員が限られていたりするため、研修の機会を設け、各教科で活用の幅を広げていく予定である。

●『④家庭学習』については、保護者、生徒の肯定的意見が70～80%であり、高評価もとられるが、学習習慣に差があり、家庭で学習する習慣が身に付いていない生徒が見られる。「タブレットを活用して宿題を出す」、「予習・復習の仕方を教える」など、手法を工夫しながら学校として課題を提示するようにしたい。

●『⑤読書習慣』については、前期・後期共に学習面の項目の中で肯定的意見が60%と、低い項目である。保護者も、生徒自身も読書の習慣が身に付いていないと感じていることがわかる。校時表の改定により、KKタイムの時間が短縮され、朝の読書時間が十分確保できなかったことも要因の一つと考えられる。そこで、生徒には「読書をするメリットを伝える」、「図書室からのおすすめの本を紹介する」、「読みたい本のリクエストを募集する」、「図書委員会活動で読書強化月間などを設ける」などの対策を考えている。

【生活面】

●『⑥自ら進んで明るく元気なあいさつしている』という項目については、生徒と、教員・保護者との意識の違いが見られ、生徒は進んであいさつをしていると思っているようである。こちらからもあいさつすることはもちろんであるが、あいさつについて話や指導をする中で考えさせていきたい。

○『⑧いじめのない温かい人間関係をつくり、人を傷つける言動をしないよう心がけている』という項目に関しては、肯定的意見が生徒・保護者・教員共に90%を超えているが、些細なことでのトラブルも起きている。引き続きいじめのない、安心・安全な環境作りに尽力していく。

●『⑪地域行事の参加』については、保護者、生徒共に参加していると回答した割合が50%前後と、低くなっている。地域の行事にボランティアとして参加している生徒も固定化しており、生徒一人ひとりが地域の一員であるという意識を高めていけるように、行事の周知や参加への呼びかけを強化したい。また、一年に一度は行事に参加する経験ができるような仕組みを考えるのも良いのではないかという提案もあった。今後、行事への参加の呼びかけを工夫していきたい。

●『⑬テレビ、ケータイ、スマホ、ゲームなどの使用時間や使用方法を自分でコントロールできているか』という項目では、前回同様に生徒・保護者ともあまりコントロールできていないという結果になっている。ICT 機器の危険性については、アウトメディアの期間など機を捉えては声かけをしているが、自分で計画的に使用することができていない。また、SNS で生徒同士のトラブルが学校生活の人間関係にも影響しているケースが見られ、使用に関しては保護者の管理下で使用させることがトラブル防止に繋がっていくことを周知させたい。